

議会報告会

日時：10月5日 午後1時30分から3時10分
場所：筒賀福祉センター

安芸太田町議会の出席者

中本 正廣（議長）	佐々木 美知夫（副議長）
末田 健治	津田 宏
角田 伸一	佐々木 道則
田島 清	大江 厚子
斉藤 マユミ	影井 伊久美
小島 俊二	大江 昭典

○田島清議員

はい、御案内の時刻になりました。本日は大変お忙しい中を議会報告会に御参加頂き、誠にありがとうございます。私は、田島清と申します。年4回の発行の広報紙もりみんだよりを5人の委員で編集しており、広報委員会の委員長を務めております。今日の報告会では、9月定例会の報告や地域の貴重な課題、今後の施策についてお話をさせていただきます。先日28日に先月28日ですが、合併20周年記念大会が戸河内で行われました。住民参加のまちづくりが提唱されました。議会としても合併以降、こうした報告会が不十分であったとの反省から、今年、戸河内会場を皮切りに加計会場かけはし、そして本日の筒賀、筒賀福祉センターの会場で3か所目の開催ということになりました。広報広聴委員会の委員では、恒例で委員については新人議員が担うということで今の委員会を構成しておりますが、議員になりたての初心に立ち返り、町民の疑問に思うこと、知りたいことを特集記事として取上げてきました。しかし一方的な情報発信になりがちでした。議員と町民の協力は地域の課題解決や活性化に向けた重要なステップです。お互いの理解と信頼を深めることで、よりよい地域社会を築くことができると思います。皆様の御意見や御質問をお伺いすることも大変重要です。ぜひ活発な御意見を頂ければと思います。繰り返しになりますが私たち議会は、地域の皆様の声をしっかりと受け止め、よりよい地域づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いをいたします。それでは早速始めさせていただきたいと思います。本日は副委員長の影井伊久美議員が司会の進行を務めますので、よろしく御協力をお願いいたします。

○影井伊久美議員

失礼します。それでは開会にあたりまして、議長、中本正廣よりご挨拶申し上げます。

○中本正廣議長

はい。皆さんこんにちは。昼間のといいますか今は国会のほうでは一応新しい石破総理大臣になったということで、またいろんな面が変わってくるんじゃないかなというふうに思いますし、また地方がよくなるような兆しがあればというように期待しているところでございます。また今農繁期も大体終わったんじゃないかなというふうに思っておりますし、忙しい中をお集まり頂きまして、本当にありがとうございます。今日は先ほど広報の委員長が言いましたように、9月定例の関係の中身的なことをさせていただこうと思っておりますし、その中では各委員長が報告をいたしますので、しっかり聞いて頂いて、また御意

見を頂けたらというふうに思っております。今日は一つ、時間の許す限り御意見頂きたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

○影井伊久美議員

それでは次第3番、議会広報広聴調査特別委員会委員長の挨拶は冒頭にも申し上げましたので、続きまして、遅れましたが、本日の司会進行を務めさせていただきます、私も広報広聴調査特別委員会副委員長の影井伊久美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。では、会の進行にあたり、まずはじめに、皆様方をお願いとお断りを申し上げます。1点目に、お手持ちの携帯電話等は電源をお切りになるかマナーモードに設定していただきますようよろしくお願いいたします。また、本日の会は議会事務局のほうで録音をさせていただきます、後日会議録をホームページにて公開させていただきます。なお、皆様方の携帯や機器などによる録音は御遠慮頂きますようよろしくお願いいたします。2点目に、本日の会の様子を写真撮影し、議会だより及び議会ホームページに掲載させていただきますことも御了承頂けたらと思っております。撮影などNGの方がいらっしゃいましたら、遠慮なくお申出くださいますようあわせてお願い申し上げます。続きまして、本日の会の進行について御説明申し上げます。皆様方の御手元でございます資料に基づきまして、議員紹介、決算審査特別委員会、続いて、地方創生調査特別委員会の各委員長によりそれぞれ報告をしていただきます。そのあと質疑や意見交換を60分程度行い、終了時刻は15時を予定しておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。それでは、次第の4、議員紹介へ移ります。御手元の配付資料に議員紹介がございます。時間の都合上、詳細につきましては、そちらを御覧頂きまして、また先ほど御挨拶いたしました議長中本、委員長田島、司会影井は割愛させていただきます、簡潔に自己紹介をいたします。それでは、端からお願いいたします。大江厚子議員からよろしくお願いいたします。

○大江厚子議員

戸河内土居の大江厚子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木道則議員

はい、失礼します。殿賀で住んでおります、佐々木道則でございます。よろしくお願いいたします。

○末田健治議員

津浪に住まいをしております末田健治と申します。よろしくお願いいたします。

○津田宏議員

戸河内上本郷の津田でございます。よろしくお願いいたします。

○佐々木美知夫議員

筒賀の三郷に住んでおります佐々木美知夫でございます。よろしくお願いいたします。

○中本正廣議長

津浪の中本です。よろしくお願いいたします。

○角田伸一議員

上筒賀本郷に住んでおります角田でございます。この後、道の駅再整備事業について報告させていただくことになっております。よろしくお願いいたします。

○小島俊二議員

加計の小島と申します。よろしくお願いいたします。

○斉藤マユミ議員

戸河内松原に住んでおります斉藤マユミです。議員紹介の4ページでございます。どうぞ

よろしく願いいたします。

○大江昭典議員

筒賀の大江でございます。よろしく申し上げます。

○影井伊久美議員

ありがとうございます。それでは続きまして、次第の5、報告事項といたしまして、9月定例議会で審査いたしました令和5年度の決算につきまして、9月12日から17日までの期間、決算特別委員会を設置し、審査した結果を津田委員長より報告書の読み上げをもって御報告させていただきます。資料は別紙1を御覧ください。津田委員長よろしく願いいたします。

○津田宏議員

はい、着座のほうで発表します。簡単に先月行われました決算委員会、報告いたします。御手元にですね報告書以外にちょっと集計表的にまとめたのがございますので詳しくはそちらのほうを見ていただけたらと思います。全般をお話ししますとですね、一般会計への歳入総額はですね、歳入総額は85億5,430万円。前年度に比べて0.4%の増。歳出総額は3億3,200万円の前年度に比べて1億5,700万円、1.9%の増となっております。歳出の主な内容、内訳として旧JR滝山川橋梁の撤去工事、これは県の補助金、国の補助金を頂くことになりました。本来でしたら自己財源でやるところを議長以下県のほうの働きかけによって補助金を7割頂いております。それと校務支援システムなど、教育DX推進等の大型事業にあわせ、地域通貨moricaを活用した定額タクシーの運行、それから道の駅再整備事業におけるPFI事業の推進、加計スマートインターチェンジのフルインター化に向けた測量、基本設計、及び安芸太田病院の入院棟の改修のほか、医療機器の更新など、病院施設の環境整備を図っております。また、物価高騰対策として、moricaプレミアム付与事業、町内事業者への光熱水道費等の経費負担に対する補助金と事業継続支援を行っております。また一方で歳入につきましては、新たなポータルサイトの追加これは、ふるさと寄附金ですが、新規お礼品等が49点の追加により、ふるさと納税の寄附額は、企業版ふるさと納税と合わせて1億8,700万円を超えて昨年を引き続き、過去最高を更新しております。ざっとでございますが、詳しくはですねホームページに、主要施策の成果に関する調書等々で載せておりますので、もし興味のある方はそちらの方を御覧頂きたいと思っております。以上でございます。

○影井伊久美議員

続きまして、議会選出の監査委員佐々木道則議員より監査報告をいたします。

○佐々木道則議員

はい。失礼いたします。議会選出ということで監査をさせていただいております佐々木でございます。内容につきましては今、津田委員長のほうからありましたんで、あれですが、安芸太田町長からですね、送付されました令和5年度の安芸太田町の一般会計歳入歳出決算書ほか13の特別会計につきまして、会計の歳入歳出の決算書について、数値等の正確性とか何かを見させていただきましたが、異常なく適正に処理されていることを、認めておりますので申し添えておきます。以上でございます。

○影井伊久美議員

ありがとうございます。では続きまして地方創生調査特別委員会について角田委員長よりご報告させていただきます。資料の方は別紙2をご覧ください。

○角田伸一議員

はい。地方創生調査特別委員会の委員長、角田でございます。9月定例議会において、議案提出のあった議案第57号、事業契約の締結について説明をいたします。事業契約の内容は、道の駅来夢とごうち再整備事業の事業実施者となる契約の相手との契約を締結するというものでございます。結果は全員賛成で可決をしております。道の駅来夢とごうち再整備事業は、平成31年1月に国土交通省の重点道の駅の指定を受けております。大きな動きもない時期もありましたが、令和3年1月に、道の駅再整備基本計画策定委員会が設置をされ、道の駅再整備に向け検討が開始され今日に至っております。議会といたしましては、機会があるたびに全員協議会、地方創生調査特別委員会で、提供のあった基本計画案、検討の経過について質疑を重ね、情報を共有してきたところでございます。それでは今回決議に至った道の駅再整備事業の内容について説明させていただきます。御手元の資料は2でございますが、1番目として事業の実施方針、P F I方式としております。これは従来のですね事業の実施方法は、設計は設計業者に、建設は建設業者に、そして管理運営は管理運営する業者にそれぞれ分離して事業を発注しておりましたが、このP F I事業というのは、公共事業を民間の資金と経営能力技術を活用して公共工事を実施するというものでございまして、設計、建設、改修、更新等の運営を含めてそうした事業をですね、一括してやるという方法でございます。ですから今までの事業の実施の仕方とちょっと違っておりまして、契約をしてから設計に入ると、そして建設をして運営するというような手順になっておると。ちょっと今までと違う方法で事業が実施されます。そういうことで、設計、施工、維持、管理、運営の全てを一括して実施するためには、それぞれの専門事業者の集合体でなければならないということでございます。そういうことで、この2番目でございますが、契約の相手というのは、道の駅来夢とごうちの設計、施工、維持、管理、運営を一括することを目的に会社が設立をされております。それがここに書いてあります。会社でございまして、名称が株式会社ゲートステーションあきおおた、代表取締役 橋本稔広、会社の所在が広島県山県郡安芸太田町大字加計239番地1となっております。こういう会社のことをですね、一般には特別目的会社、また短縮して言いますと、S P Cという言い方もされております。これ6月13日に設定をされております。次に、3番目の契約金額でございますが、21億5,000万円となっております。この21億5,000万、その前にですね、前年度末にですね、この事業の最高限度額というのが定められております。それは23億2,915万円ということで、債務負担行為を済ましておるところでございます。その金額以内での21億5,000万という契約金額になっております。次に、契約の期間でございますが、議決のあった日から、令和24年3月31日まで、施設整備後15年間の運営期間を含むものというようになっておりまして、大変に長い期間の契約ということになります。それではこの道の駅事業がどういうものかということでございますが、施設の概要について、簡単に説明をさせていただきます。道の駅というのはですね、一般道のオアシスというような感じでございまして、トイレ休憩とか休憩とかができて、そのほかには、その地方の珍しいものが食べられたり、また手に入ったりということが利用者の目的になろうかと思えます。また地域の人からとってはですねやはり時々行って人との交流を図ったりということもあろうかと思えます。そういうことで、このたび提示されました施設の機能ということについてですね、申し上げますと、五つの機能に一応分けられておりました。一つは、休憩機能ということで、駐車場とかトイレの整備、そして二つ目が情報発信機能、安芸太田町の情報をですね、一手に発信したり、案内をしたりというような役目のものだと思います。そして地域連携機能、ここがですねやはり、地域の人もそこに行ってですね、いろいろと自分の用事をしたりとか、それ

と交流を図ったというような目的が含まれておりまして、イベント広場とか、交通のためにですね必要なバス停であったり、子育てのスペースであったり、また金融機関の窓口であったり、そういうものをまとめたものでございます機能として、これ地域連携機能というようにまとめられております。そして物販機能、ここが物を売るところでございますが、農産物の販売であったり、安芸太田町の特産品の販売するコーナーでございます。道の駅のほうにほかの道の駅に行かれたときにですね、もうこういうところはいろいろとあろうと思ひまして皆さん御存じと思いますがそういうものでございます。それと、飲食機能としてですね、飲食機能として、フードコート、ここがですね、テイクアウトであったり、また屋外でのショップもできるようにですね、検討されております。こういうものを含んだものを道の駅の中に整備をするということでございます。場所でございますがもう皆さん御存じのとおり、そこの道の駅をちょっと拡張してやるということで、その中に今のようものを配置するというように、思っただけならば幸いですと思ひます。このですね、レイアウトについても、行政のほうから示していただいた部分については、まだ検討中であるということもございましてですね、それからまた、我々としても、あれはどうかいの、これはどうかいのというような質問もしたところでございましたが、今から設計に入る部分ですからということで、追及してもなかなかそのあたりについてはですね、いろいろと言ったことについてはその意見は聞いておきましょうというような範囲でございました。そういうことで、この道の駅が、いよいよ建設に向けて動き出したというような段階だと思ひます。私のほうの説明は以上にさせていただきます。

○影井伊久美議員

ありがとうございました。9月定例会決算の報告とさせていただきます。ここからですね本日の資料の中に議決の一覧などもご用意させていただいております。それではこれより次第の6、意見交換にいきたいと思ひます。意見交換を始めるにあたり、皆様方にお知りおきを頂きたいことがございます。議会は議案の審議や議決を行うことはできますが、議会に執行権はございません。したがって町政に対するご要望やご意見につきましては、ご回答を控えさせていただく場合もございます。ただし本日いただいた貴重なご意見は持ち帰らせていただきますので、ご了承のほどよろしくお願ひいたします。ご意見ご質問をされる方は、挙手の上、地域名、お名前をおっしゃってからお願ひします。なおできるだけ多くの方にご意見が伺えるよう1人3問程度を目安にお話しくさいますようよろしくお願ひします。それでは早速ではございますが始めていきたくと思ひますが、どなたかご質問ご意見ございましたら。

○住民さん（栗栖吉三郎氏）

せっかくの機会ですので、発言をさせていただきたいと思ひます。まず最初に、こういった議会報告会ということですね、開催をするということで、議長以下議会の各位の方々が御尽力を頂いて、とてもいい取組だというふうに私は思っております。そういうことを前提で、近い将来、今回は筒賀会場ということではあるようですが、例えば3班編成で、町内3会場で開催をされるとかというようなことを含めて検討頂いたら、ありがたいというふうに思っております。そこで、私は何回も発言することがちょっと難しいことがありますので、一括して発言をさせていただきます。まず決算の関係について、私今日資料頂きましたけど、できるものであれば、例えば町のホームページ、あるいは監査委員会の佐々木委員のほうから、決算のことについて言及がありましたけど、監査意見の意見書を含めて、提示し、資料化していただいたらありがたかったなというふうに思っております。そうい

うことを前提で、今回の決算報告の資料を見させていただきますと、各種会計決算の状況についてつづきに報告をされ、審査の上全会一致で認定をしたということですから、それはそれで結構ですが、私が気になってることは、単年度の予算決算の認定ということではありますが、町が抱えておる懸案事項、例えば公共施設の管理計画を平成28年だと思いますが、つくって実施計画が、いまだもって策定されてないということで、急いで、実施計画をつくるということで、行財政審議会のほうでも議論されておるようではあります、そういったことの進捗状況とか、あるいは私気になっとるのは、平成の大合併、学校統合の関連で、私も当時一員として関わらせていただきましたけど、学校の跡利用のことについて、余り進んでないというふうに思うんですね。私は当時、殿賀振興会の会長もしておりましたし、議会の特別委員会の委員長もさせていただいておりますけど、学校統合は必要だということを前提で議論をさせていただきましたが、跡利用について、7年たってもいまだもって具体化ができてないというような状況は、私は問題だと。そういうふうな町が抱えとる懸案事項を議会の決算審査では、どのように指摘をし、されたんだろうかということが気になっておりますので、そういったことが分かれば教えていただきたいというふうに思います。それからあとは、次のこととなりますけど、道の駅のことについて委員長のほうから報告がございました。私も関心を持っておったわけですが、随分以前までは、町の広報等において、道の駅の取組の進捗状況はこのようになっております。あるいは道の駅の整備について検討をされる委員会では、どのような議論をしておりますということが町のホームページ等に掲載しておったと思うんですね。それからその段階では、道の駅整備の基本構想ということで、大体のイメージ図も示されとったと思いますけど、今回21億5,000万円ですが、議決をされたということですが、特別委員会ではどのような議論をされたのか。特に私が知る限りにおいては当初の計画では、バイパスから現在の道の駅の駐車場スペースに道路が進入路が確保されるとか、あるいはバスのロータリーはもう廃止して、整備するとか、それから建屋母屋については、駐車場の中ほどか、奥側か、というようなことでね、具体的に、図示されて説明がされてきとったと思うんですが、今回、聞くのに、進入路はやめた、バスロータリーは今とほぼ同じような状態。母屋については全然配置が違ふと。そういうふうに抜本的に変わるような内容になるとしたら、それがなぜそうなのかというようなことをね、やっぱり町民の皆さんに、広報とか様々な方法で知らせていく責任があるんじゃないかと。こうこうこういうことで決まりました、ただ議会報告会ですからいいですけど、町長自身が、このことについては町民にしっかり説明をせにゃあいけん立場にあるんじゃないかというふうに私は思うとるんで、そういうような当初の計画よりか大幅に変わっておるように私は類推しますが、議会特別委員会ではどのような議論がされたのか。あるいは、当初の敷地の中で、営業されておるセブンさんとか、チャレンジショップとかJAとか安芸の国酒造とか、そういったことの交渉はもう完結しておるんだろう。そういうふうなことは議会ではどんな、具体的な中身を言ってもら必要ありませんけど、そのようなことについて議会ではどのような議論をされたんだろうかというふうに私は気になっておるところでございます。そこらあたりは、それから、21億5,000万円ということですから、財源内訳は町の真水のお金は何ぼ出して、補助金は何ぼ入って、というようなことはね、やっぱり説明される必要があるんじゃないかというふうに私は思うております。それから、事業主というのは初めて聞いたんですけど、加計に事務所があるように書いてありますけどね、その会社というのが、どういう会社か知りませんが、委員長のほうで説明があったかも分かりませんが私はちょっと聞き取りにくいんで申し訳なかったんですけど。21億5,000万円

の事業を運営していくような会社、どういう会社か。事務局が加計にあるように書いてありますが、というようなことを少し付加して説明を頂きたいというように思います。それから最後になります。私は今回のあれで議員の定数問題について採決、議決をされたように、これありますね。結論はもう出たわけですから、結論をどうこう言うつもりはありませんけど、私7月27日だったですか、戸河内会場の時に1番目に発言をしました。その中で、今の段階では、9月に定数、12月に報酬を決めるということについては、早計すぎるんじゃないかと、拙速じゃないかというような意味合いで質問したところ、小島委員長は、確かに特別委員会では、9月の議会で定数を12月の議会で報酬という考え方は確認をしておるが、最終的に決めたわけじゃないと。アンケートの結果やら、住民さんとの懇談会の出された意見等を、踏まえて、議会として判断をして、議会としてはこういうような考え方でこのようにしていきたいとかいきますとかいうようなことを報告しますと。7月中にと見解表明されましたね。ところが、アンケートの結果は8月の終わりです、公表されたのは。そうするとおおよそ1か月ほどずれとるわけですね。にもかかわらず、9月の議会では、定数の条例を議会として議決されたということについては、私はちょっと問題があるんじゃないかと。この12月では今度、報酬を決定をされたいように説明でしたですね。小島委員長は、議会としてこういうような活動をするから、よってこれぐらいの報酬をお願いするということをしつかり議論して、説明してというようなお話ではありましたが、本当にそういうふうなことを、約束されたことが実現できるんだろうか。定数の問題で、そのようなことをされたということについてはね、やっぱりきちっとした総括というか私は反省をされて対応される必要があるように私は思います。以上です。

○角田伸一議員

はい。道の駅について。覚えきれんぐらいたくさんの質問頂きまして質問の漏れがあるかと思いますが、答えられる範囲でお答えをしたいと思います。当初示されてきた図面と若干違うんではないかというようなこともありましたね、確かに違っておりますし、先ほど質問があったように、そのような内容のレイアウトであったわけですが、それ以後、そのことについての説明もないままにですねこのたびの議案提出に至ったということでございます。それとそこの事業地の中に既存の業者がおられるが、これはどうなっておるかということがありますが、これは町のほうでですね、いろいろ交渉されましてですね、一応、このたびの構想の中には、組み込まれないものもありましてそこは外部へ移転をしてもらうということと、中にはそこの中に取り込んでもらってですね、事業実施としてもらってもいいということがございましてそのように町のほうで交渉なり調整をされておるところでございます。それと、会社のことでございますが、これ業界といいますか、ちょっとSPCというようなですね言葉を使って表現されるわけなんです、特別目的会社ということで、特別な目的を持ってつくられた会社ということになるわけですが、それがこのたびは、来夢道の駅のですね、建設から管理運営まで全部やるという目的を持ってですね、設立されたということでございまして、名前はゲートステーションあきおたとなっております。この中ですねどういいう企業が入っておるかといいますと、これは株式会社合人社計画研究所、構成企業としてはですね、広成建設株式会社、この建設関係でございます。それから株式会社クラフトコーポレーション、これは運営のほうでですね携わるということでございます。錦建設株式会社、これも建設ですね。株式会社あい設計、これはですね設計監理をやるということでございます。そのほか、協力企業、株式会社アービカルネットという会社が協力するというようなことをですね、伺っておるところでございます。そ

れとまだ何かあったか。ちょっと事業費のことですね。事業費21億5,000万、これは丸々町の持ち出しではございません。一応ですね国のほうからの補助金を受けたり、過疎債を利用しての、この金額になっておまして、交付金とか地方債ということでちょっと整理したものがここにあるわけですが、15億4,823万1,000円は、交付金なり地方債のほうで補填をするということで、一般財源、これが先ほど言われた町が丸々持ち出しにする金額はどうかといいますと、これが6億、約6億ということでございます。はい、以上にさせていただきます。

○小島俊二議員

はい、うちの一般財源のうち6億なんです大きく見えますが15年間の運営費なんかその6億の中に入ってますんで、1年当たりで言うと2,000万とかぐらいのレベルです。6億円は15年間にわたって一般財源を支出するというふうに御理解頂きたいというふうに思います。それともう1点質問があった決算の監査委員さん等の意見の内容につきましては、今度発行する11月のもりみんだよりのほうへ監査意見書と委員長の報告書のほうを掲載する予定にしておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。それと公共施設管理計画とか学校跡地につきましては、決算委員会の中で各委員のほうに質問をされる部分や一般質問の中で、随時質問されておりますので、また、町民の皆さんの方へその辺のことはもりみんだよりのほうで報告できるというふうに思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。それと議員定数につきましては、4月27日、戸河内会場のほうで私のほうに定数については9月議会で報酬については12月議会でという発言をしております。そういった上では住民の皆さんにその辺の情報を十分提供して議論をしながら報告書を作成したいというふうに申し上げたしだいでございますが、一応9月議会に、定数について現有12の定数を11人、1減をするということを議決させていただきました。これにつきましては委員会のほうで住民アンケート調査及び住民懇談会で住民の皆様の意見が定数については、約7割の方が削減が必要であろうと。懇談会でも大多数の意見は削減が必要だというようなことを勘案しまして、特別委員会の中で議員で議論した結果、もともと現定数で大丈夫だよという人が半数おりましたが、やっぱり住民アンケート調査を受けて住民の意見が多数が削減であるということを踏まえて、今回定数削減に決定したところでございます。それで、個別意見ではもう少し10人なり8人という意見もたくさんございましたが、議会のせいでもあるんですが住民の皆さんと、まだ議員定数のあり方について十分な議論が進んでないというふうに判断をいたしております。次期改選が来年3月にあるんですが、次期改選後の住民の皆さんとこういった意見交換会等で、果たして議員定数議員報酬については、主に議員定数、定数については、幾らが必要なのかと。要は、住民の皆さんの意見を吸い上げたり、行政の監視機能につきましては、やっぱり議員の人数が必要でございます。そういったところをもう一遍、地域の声を通すには住民代表としての議員さんも必要でございますんで、そこを住民の皆さんともう一度と、真剣に議論する中で今後の定数についてまた議論をすればというふうに思っておりますのでよろしくお願ひをしたいと思います。報酬につきましては、7月には12月に報酬の方向性を出すということをお願いしておりますが、今委員会内部のほうで今後報酬について、今年度どういうふうに進めていくかということについて議論しておりますので、できるだけ早いうちに報酬についても結論を出したいというふうに思っているところでございます。議会から示す報酬の案につきまして今もう一遍再度チェックをしてるんですが、全国議長会の資料とかございます。そういうところをもう一遍、安芸太田町の議会の議員の活動内容を精査して、この辺が数字的に適切であるのかという

ところを示しながら、皆さんのほうでまた議論をさせてもらいたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。これが今任期が始まって4年になるんですが定数報酬について私のほうで取組が若干スタートが遅れたことがあって、十分な議論ができないところまたおわびを申し上げたいというふうに思ひますが、今後も十分に住民の皆さんの意見を踏まえた中で、決定してまいりたいと思ひますのでよろしくお願ひします。一応以上でございます。

○影井伊久美議員

はい、すいません。3班編成で町内3会場でこういった議会報告会やってはどうかといったことですけれども、委員会として、今後の検討材料として議論をしてみたいと思ひます。持ち帰らせていただきます。あと、また個人的に質問したことはございますので、公共施設等総合管理計画の進捗について、施設ごとの個別のカルテを今行政のほうで作っておられる状況です。それをもって、今後検討していくというふうに聞いております。以上でございます。それでは、ほかに御質問、御意見等ございましたら挙手のほうよろしくお願ひいたします。

○小島俊二議員

学校跡地についても確かに最近進んでない、殿賀も進んでいない、松原も決定していない、寺領も進んでいないところがありますが、先ほど申しましたように一般質問等々で各議員が、質問しております。各議員、委員会のほうでも質問しておりますので、またもりみんだより等でそういった具体的な特集を組むとかいうことで住民の皆さんに分かりやすい説明をしてみたいと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。どんな質問でもよろしいですよ。苦しい答弁になろうかと思ひますがよろしくお願ひします。

○住民さん（市田義臣氏）

1番先に質問された方が大体質問されたんであれなんです、私は議員定数のことでね、委員長も大変苦しかったんだろうと思うんですが、安芸太田町確かに人口1番少ないんですよ。私この間先日神石高原町行ったんですがちょっと話をいろいろ聞いてみると、定数10なんですよね、ここがね。大崎上島町も10人、私は安芸太田町議会は賢明な人が多いからね10ぐらいまではやってんだろうと期待しとったんですよ。ただ一つだけ、町民のあれが非常に苦情も多いし色んなことがあるけ、減はやらないけん。今回はちょっと様子見て、一つにしようというような判断かなと私は思った。残念に思ったんですよ、正直言って。島根県美郷町もやっぱり10でしょ。10人でできんことないと思うんですよ。町民の意見を希望されてちょっと先のぼしもちょっと様子見るといって小島委員長の発言でしたけれども。定数が減ればよろしいということは私は申しません、はっきり言って。8いうのはよくないけどやっぱり10まではやっぱしやって、それはいろんな町民の声、意見を吸い上げるいう形から言えば議会構成色んなことから考えてやっぱり10だろうと思うんですよ。人口が減ってもね。そこまではやっぱし、減らしてやって議会構成をしていただきたいと思っております。それが1点。それから今栗栖吉三郎議員さんが言われました道の駅のことについてですね。私も議会に籍があるときに合併してすぐから発言して20年ぐらいたってるんですよ。まだ着工に至ってないと。これちょっと時期を私は失したんじゃないかなと私状況見て思ってるんですよ。果たして21億ぐらい金かけてうまく軌道に乗ってね、事業が成り立つのかなと1番危惧してます、はっきり言って。それで代表取締役の橋本さんという方が、この管理会社から言やあ、合人社の出身だろうと私は思って見ていますが、それから今委員長の角田さんが説明されたように、既存の、そこで商売されてる方が全員が

立ち退きじゃないというようなことがありますからね。だからどうしてもね交渉ごとが良いことにならんもんだから、もう時間待ってもらんで見切りスタートでいうような形だろうと思ってるんですね。それから今の物産販売は今産直市見ましても私も、いろんなものに若干は出しておりますが、出品者の数字が伸びてないですよ。角田さんも出品されてますが出荷者が生産者がね。それから高齢化の問題があつてね多品目も角田さんなんか非常によく頑張っておられるほうだと思いますが、多品目作るのは大変、生産者が高齢ですから大変だと思うんですよ。今状況を見ても、よそから物を持ってきて売ってるという状況ですから、地域の特性が薄れてる部分がありますよね、状況から見てもね。そういう問題もあるから、いかにして出品者を増やすかということが大きな問題では、今産業振興の担当者なんか言うても、具体的に動いてるような様子がないように思いますね、行政のほうもね。そこらはどのようにお考えなのかというのがありますし、それからこれに先ほど言っとった一つの機能の説明ございましたが、防災機能の機能は入ってるんですかね。ちょっとそこらのことをちょっとね、防災拠点。今からこれ必要じゃないかと思えますけどね。そういうとこでちょっとお聞きします。

○小島俊二議員

はい、議員定数について御意見を頂いたんですが、私議員になる前、議員は少のうてええいうほうでございました。10人8人でももうんじゃないかと思っとったんですが議員になってみてやはり地域の意見とか、議員間の決算のチェック機能とかいうことであるとやはりある程度の議員数は必要ではないかというふうに今現在思ってるところでございます。その意味で、住民アンケートの数多くは議員削減でございました。そういった意味で議員全員で11人1減はしていこうと。しかし、果たして今後10なんか8なんかいうところにつきましては今後また新しい任期の中で、本当に住民の皆さんと議員定数がどうあるべきか住民の代表としての議員ってのはどうあるべきかというのをもう一遍真剣に議論する中で、方向性を出したらと現在思っておりますんで、その辺また御意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○中本正廣議長

今の議員定数のことについてはですね、今80億ぐらいが町の予算ですね、それが特別会計を含めると150億になると。これを、少ない人数でやって審査していくんかということが一つあるということ。それと、やっぱり地域からの声の吸い上げというのがやっぱりしっかりと上げてこないかんというのがありますよね。そういったことを含めて、10になったところ、例えば今の神石高原町では、委員会やるときちょっと困るんだというのは声は聞いてるんですよ。そういった意味では、11というのは奇数でちょっと難しい面があるんですけど、今回はそういったことで余り深く、多く減らすということは、しないほうがよからうということであろうとこうなったというのが現実ですね。それと道の駅の件ですけど、これさっき市田さん言われたように私も前から多品目やらなだめということ、それから農産物が1番だということはいつも言ってることなんですよ。産業課のほうにも昔でいう技手さんとか営農指導員とかっていうのを、もう前から言ってる、ようやく今回1人ほど入ってるんですよ。それがちょっとどのぐらいの指導してくれてるかちょっと分かりませんが、それを早くやらないと、いざできたときに品物がないということになってくんじゃないかなろうかというのは心配しております。それと防災拠点、これはですね今全体的な中のある程度の図面が出てきたとき、見たときにこういったことがなかったのもそれはし十分指摘しております。そういったことがないといけない。それとやっぱり、集会施設

会議することか、そういったところがないといかんからということは言っておりますし、まだ確信的にこれがまだ決まったようなわけじゃないので、今からどんどん意見を入れていって、細かい細部についてはやっつけていこうというように思っておりますので、よろしくをお願いします。

○角田伸一議員

はいそれでは道の駅の採算性ということでございますが、この事業はいろいろな分野のプロが集まって会社をつくってですね、その中で設計から施工管理運営までですね、この長期をにらんで、この金額ははじき出されたものだとは私思っております。そういうことでいいますと、会社のほうでその採算性を見込んで、こういう金額を示されたんじゃないかというふうに私は思っております。それと産業振興に係ることなんですが、物産とか産直市のことなんですが、やはりこの生産指導ということですね、しっかりせんとなかなかそのものが出てこんということがございまして私も一般質問なりでは何回もですねやっておるわけなんですが、そういう中で、去年は指導員をですね、1名ほど入れて、特産品の開発を主に携わっておられました。それと新しいところでは、小規模の農業者もやっぱり支援していこうということで、小規模農業者を支援するような補助事業もできておりますし、また皆さんよくお目にかかると思いますが、ビニールハウスをですね、設置をしてコマツナを生産されておりますが、これは、活力農業広島といいましてJAと一緒にですね、研修期間を設けて、その研修の成果技術を身につけた人ですね、そういう事業をやっておられるということですね、安芸太田町のほうもですね支援しております、今、ちょっと数字がはっきり、6か8かぐらいの程度ですね、そういう事業者が入っております農業の振興を図っておられるということでございます。以上でございます。

○影井伊久美議員

では他に質疑意見ございましたら挙手の方をよろしくお願いいたします。

○住民さん（奥下武士氏）

ちょっと道の駅の整備のことでですねいろいろ聞かせていただいて、イメージ的にはある程度、イメージできたかなというふうに感じるんですけども、既存の中における企業との中でですね、一部、この計画に同意が得られない部分があるというふうなちょっと指摘がありましたけれども、まず今の現状から見たときにですね、1番ネックになるのは、国道よりも、国道のもう少し駐車場側にある下から上がってきた道がありますよね。この道がですね、この整備の中でどういうふうに扱われるんだろうかなと思うことと、それから、今の一部、同意が得られない部分があるということの中に、例えばJAなんかはそこへ入っとるんであればですね、大きな改善というのは見込めないだろうと私は思いますよね。するんでですね、その辺りのところちょっともう少し、情報はよく分かりませんので、なんですが、そもそもですねこの道の駅の整備というのは、場所をもう少しほかの位置に変えられんのかというふうなことを含めてですね、検討されるべきであったと私は思うんですよね。現在のですね、道の駅のありようというのはですね、大きく、状況をですね、変えるわけにいかんですよ。そういう中でね、新たな計画をされたわけですけども、もう少し三段峡寄りに僅かのぼればですね、使われてないパチンコ屋がありますね。その隣にも大きな広場がありますよ、私有地であります。しかしそういった、当初ですね、もう少し、別な投資を考えていけばですね、道の駅そのものをですね、もう少し場所を変えるということもできたはずだと私は思いますけれども、そういった検討はされなかったのかどうかをお聞かせください。

○角田伸一議員

はい何点かありました。今のですね場所のことで検討委員会のことでましたが、一応検討委員会のことについてねどうだったかというのはちょっと私のほうからちょっと答弁ちょっとしづらいということがございますのでそのほかについてですね私のほうで答弁したいと思います。まず、セブンイレブンのほうからちょっと入ったとこに向けて既存の農道がありますが、これ門田線というんですがね、これはこのたび話がついてですね、一応その線は廃止にして、一応道の駅の中にですね取り組むというような調整がされております。ということで今言われたその道については大丈夫だと。それと既存の業者のことなんですが、2件ほどありますが、セブンイレブンとJAが大きなものになります。JAについてはですね、その場で解体されようが、どうされようが協力しますということは協力を得てます。それからセブンの場合はですね、検討委員、私は地方創生調査特別委員会の中でも、セブンも道の駅の中に入って、その中の一部に店舗を出したほうがいいんじゃないかというような話もしたわけなんですけど、セブンイレブンのほうがそうでなしに、自力でやりたいということがありましたんでこの計画の中には入ってこないということなんです。そんなときに今の協力するとかしないとかいうことで、ついてはもう一応行政のほうでそういう話がついておるといように報告を受けております。以上です。

○住民さん（市田義臣氏）

ジュンテンドーは検討外なんですか。

○角田伸一議員

ジュンテンドーは今のこの中に入っておりません。

○住民さん（岡田一枝氏）

すいません。今道の駅の話は、一括して業者の人が受けられるということになっているんですけど、それと同時にこのたび、町営住宅が3か所できますよね。その住宅の分、詳しいことは分からないけど地元の業者の人に言わせると、一切地元の業者には関係ないのだということを知っているんですけど、あれが、たとえせつかく公共事業が町に入っているのなら地元の業者へも潤いがあるようなやり方というのは、議会人としてはどう考えてらっしゃったか、そういう意見は出なかったか、そのことをちょっとお尋ねします。

○津田宏議員

2社ほどを3か所一括で発注かけたわけですが、地元の業者のグループもおられました。それから合人社を中心とした市内のグループもおられまして、その中で提案の中で町の予算の範囲内、あと土地の範囲内で先行して決めたということで、それが別々な業者があってもその下請、担う工事はそこに発注できるというふうに聞いております。加計土居にあったのがちょっと土地の地盤が改良が2,000万ぐらいかかるということで、戸河内土居に移るといふふうに聞いておりますし、それから上殿の定住住宅ですね、これも鉄道の跡地を今造成しております。それとあと筒賀、筒賀のやっば鉄道跡地へ、あそこへ10軒ですかね。そういう形なるべく地元の業者が入れるような形をとってもらいたいという要望は出ております。だから今度は民間対民間の話になりますから。

○住民さん（岡田一枝氏）

その分の業者関係ないと業者の方おっしゃったんですけど、全然私らに関係ない、ほいじゃあ一種の談合みたいなんですかねいうことも個人的に安心したことがあるんですけど、談合いうことはできることじゃないけどいふうなね。地元の業者の人はね、何か、本当に心から納得しておられるようなことじゃないような気がするの。

○津田宏議員

そういう話もお聞きするんですが、黎明館をやるときに、4億から5億の規模で行ったんですがこれ軽量鉄骨という特殊な工事。それで地元でそれができる業者がいなかったということがありました。確かにね。

○住民さん（岡田一枝氏）

地元でできないことはもちろん地元できないけど、地元でできる仕事もあると思うんですよ。だから、そういうことはそういう地元ができることは地元の人でお願いできるようなやり方で進めていただければ、地元の業者の人もいいんじゃないかと思えますけどね。

○津田宏議員

原則、原則地元を使ってくれという要望は町のほうから出しております。

○住民さん（岡田一枝氏）

しておられるんですか。

○津田宏議員

金額が合う合わんだけ。

○中本正廣議長

一つはですね。

○住民さん（岡田一枝氏）

一つの逃げでしょ。

○中本正廣議長

一つはですね、金額的に今の加計、それから戸河内、筒賀とやる予定が今、上殿と戸河内と筒賀になったんですけど、トータル的な金額から言うたときに、地元の業者では請負ができないんです。金額的な総金額。分かります。それともう一つは、今受けてる業者はもともとはやっぱり一つ錦建設が受けとるわけですけど、これまで入ってきた中で地元を必ず使ってくれてるんですよ。これはいろんなところ何かにしても地元を主に使って今までの仕事をやってきております。それが今基本で、加計に事務所があるわけですけど、そういったことで地元の業者を使わないということはまずないですから、地元ができるような中身でできるものはやっぱり地元を使ってやってると思えます。

○住民さん（岡田一枝氏）

そうですかね、何か錦、錦いう声ばかり出るような気がするんですよ。そういうところがちょっと業者関係の間でも、心にこもったもんがあるんじゃないかというような気が、話の中でとれたんですよ。

○中本正廣議長

いやそれはですね、今の高架橋をやるのにも錦が入って下請は地元の業者が入っておりますし、やっぱり、通るときにそういったことをやってくれる業者ならまだ、まだ、まだいいと思うんですよ。地元を使ってくれるところはね。だから物によっては、前回黎明館4億かけてつくりましたが、これは積水やったんですけど、地元はほとんど入ってませんよ。だからそういうところ入るとある業者で入ると、地元は使ってくれないこともある。だけどそれを地元からの出身の業者はやっぱり地元をしっかりと使ってくれてるというのが現実です。

○住民さん（岡田一枝氏）

だから議会の人として、地元の人ができるだけ生きていけるような方向で議会の人も協

力してあげていただけたらと思います。以上です。

○津田宏議員

恐らくその話が出たのはですね、提案型でして、今回は。場所と、それから規模については、地元の、名前出していいか分からんけど、グループが集まって応募したのもありました。それが採用になってないのが現実です。その業者は役場の前の鉄道の跡地をアパートにするとか、戸建てでやるとか、いろんな提案が出てまして、これはやっぱり将来的な住宅の、募集のときにね、あれ、入ってきて家賃で借金をみな返していくという町の負担がほとんどない事業なんです。それに、マッチしたのが、錦建設を中心としたグループがとられたというふうに聞いております。だから、町内をはねたような発注の仕方は一切してません。結果がそうなったということで理解頂きたいと。

○影井伊久美議員

ほかにございましたら。

○住民さん（奥下武士氏）

ちょっと視点を変えて話をさせてもらいたいと思うんですが、合併後、ちょうど今年10月で20周年を迎えたわけですけれども、合併してですね、それぞれ旧3か町村の中においてはですね、様々な、いろんな、どう言いますかよかったことも、そうでなかったことも、随分、耳にして、また目にしてですね、きましたけれども、そういう中で議会のほうもですね、いろいろと行政に対する姿勢をですね、正してきておられることは、議会だよりによってですね、その都度、大まかなところはですね、見させていただいてきましたけれども、これまでのですねこの議会だよりで感ずることはですね、議員さんは、この一般質問という機会をですね、確かに質問ということが出ますから、いろんな質問をされるのはですね、それもとてもなんですけれども、もう一つですね私は期待したいのは、いわゆる議員さんというのは、それぞれ町民の負託を得てですね、議会に籍を置かれとるわけですから、やはり町民の暮らしぶりの中でですね、いろんなことがですね要望として議員さんには届くだろうというふうに思いますけれども、そうしたいろんな情報をですね、集めていただいて、そうして町政に反映をしていただくということもですね、私は議員さんにとっては必要なことの一つだろうというふうに考えますね。それとですね、やはり議員さん、個人の思いもあるでしょうが、議会としてですね、執行者側に対して、やはりまちづくりについてですね、いろんなことをですね、やっぱり提言をしてもらったり、あるいは提案をしてもらったり、そういう部分はですね、私はこれからの議会にもっとですね、そういう面でですね、私は活躍してほしいと思います。それがやはり住民のいろんな希望や要望の負託にこたえていくということがですね、やっぱり議会として、提言提案ということにですね、やっぱり結びついていってほしい。それを私は期待をいたします。いろいろですね、行政施策の中でいろんな課題問題ありますけれども、やっぱり議会としてはですね、そういうところに一つ、これからの視点をですね、増やしていただきたいということをお願いしたいと思いますね。そうしてですね、最後につけ加えますが、町のほうもですね、新しい長期総合計画を策定をしようというふうなことが言われておりますが、そういう中でいわゆる、要約をすればですね、今、町内に住んでいる人は、安芸太田町に住んどってよかったと思えるような町でありたい。また、外から見られるときには安芸太田町に移り住んで、住んでみたいと、そういうふうに思われるようなまちでありたい。そういう標榜をですねされておると思います。と思うんですが、それをやはり具体化していくことにですね、もっとエネルギーをですね、使ってほしい。知恵を発揮してほしい。そう思います。以上

です。

○津田宏議員

はい。私のほうから、建設関係なんですけれども、ここを30年間というものを公共事業が公共事業が悪みたいな政策を国がとったもので、186、191、整備が全然進んでなくて、公共事業もないということで、建設業者も半分になっております。それから人口も毎年130人近く3%減ってる状況のときに、6年前ですか加計高校の政綱先生が土砂崩れで津浪で亡くなりました。そのときは議会中でしたが、議長とともにですね、議会を止めて、県のほうに要望に行きました。それから予算も今年度で3倍に増えております。町のほうも一緒にそういう形ですね、何せこの決算委員会見てもですね、町民税が2億しか入ってこんど。それからあと固定資産税が4億で8億しか入ってこんど。総合1割に満たないというそういう財源の中でやっていくとすると、やはり自己財源ではいかん。やっぱり国なり県なりの要望が必要だと。さっきも言いましたが、滝山川橋梁撤去せにゃあいけんのはこれ自己財源だったわけですよ。あれは県のほうで、緊自債という補助金は使えないよということだったんですが、東京のほうに中本議長駆け込んでですね、トップダウンじゃないんですが、緊自債を使うように国交大臣も、手伝っていただいたようなこともあります。そういう面ですね、車の両輪となって、町と議会と一緒にやる方向ですね、是は是、非は非として進めて、今後もいかにゃいけんと思います。結果から言うたら、今、寺領の善右衛門トンネルとかですね、あれ10億かかるんですよ。それも17年間ほったらかしのがやっこの春に開通するというので、徐々にではありますが、公共投資事業であれば、地域の建設業の方もございますし、災害のときも建設業がないと前へ進みませんのでね、それも考えながら進めてまいりたいと思います。そういう報告事項もですね皆さん方に逐一して、いっておると思うんですが、そういう面で、また何かお気づきの点がありましたらどしどし意見を言ってもらいたいと思います。以上でございます。

○中本正廣議長

先ほど言われましたように、合併20年たちました。今回私の議長の話の中で、合併20年の挨拶の中で、住んでよかった、住んでみたいと、言われるような形の安芸太田にしたいということは、文章で話の中に入れてるんです。ただそれをさっき言われたように具体化するとか、それからそれに対するエネルギーをしっかりと持ってやれと言われたと思っておりますんで、その点一生懸命頑張りたいと思います。それと、合併20周年ということで、ここおられる方も合併時のときにおられた方がおられます。たくさんね。そのときの1番の中身的には、5年を目途に、本庁舎を中心に移すというのが、皆さん御存じだと思う。これが2年前に削除されそうになりました。その文言を。それだけは阻止しましたけど。そういったことが今あります。ですので、先ほどありました学校の跡地とかそういったところ、今1番いいのは殿賀じゃないかなと私は思ってるんですけど、全体が集約できるところだから。そうは言っても、場所だけ選んでも新しく建てるという予算、金額がないですからね。何かを利用しないといけないというふうに思っておりますけど、そういったことも含めて考えていかないけんいうように思っております。それから、先ほど言いました一般質問、私は1番思うのはこれは政策論争ですよ、1番は。これがですね、課長が答弁するような一般質問しても、これは私は意味ないと思うんですよ。これはやっぱり政策論争ですから、町長が答弁して、あとの数字的なものを課長が答弁するとか、そういった論争しないと、一般質問でないと思っております。それと一般質問の中でいつも言ってることは、お願い事とかありがとうを絶対言うたらいかんということ言ってるんですけど、どうしてもそ

の言葉が出ております。やっぱりそういったところもやっぱり、議員一人一人がね自覚を持ってやっていかないかなというふうには思っておりますので、議員の皆さんも、政策論争をするような形で一般質問するように、しっかりと頑張っていたいただきたいと思います。以上です。

○小島俊二議員

はい、すぐお願いする議員の1人でございまして、ちょっと改めたいと思います。よろしくをお願いします。議会としては議会広報委員会のほうで、議会報を早く出すとか議事録を早く出すとかいうことを努めております。もう少し早めに出せればというふうに思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。それで提案のありました。4年間で議員提案でできた条例とかいうのはございせん。国に対する発議とか、そういった部分につきましては議員提案で出しておりますが、政策について、議会のほうで提案ってなかなかまだ実現できてない部分がありますんでそういうところをまた、議会として、議員の皆さんとお話ししてからまたそういったいい提案等ができればというふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。以上です。

○中本正廣議長

先ほどありました建設業界の件がありましたけど、今入札をするときにですね、出したところで、今、建設業界の仕事がないので、安芸太田町以外のところに行ってる建設業が多いんですよ。そうすると、今管理者がいなくて入札に入れないとやれないというのが今現実があるというのをちょっと聞いております。ですので、できるだけ、この建設業界というのをやっていかないかんですけど、安芸太田町、加計戸河内筒賀は建設業界で以前はもってたというふうに思ってます私は。これが、今御存じのように、台風もほとんど来なくなりました。災害もほとんどなくなりました。壊れる用途が少なくなってきました。急峻なところはそうですけど、そういった意味で建設業界の人数がほとんど減ってきております。これやはりですね、いざ災害となったときには、頼るのは建設業界へ頼るのが一番多いわけですよ。そういった意味も含めましてですね、建設業の関係する土木費については一生懸命、県のほうにもお願ひしたり、一応やっておりますけど、そうは言っても、今までの先ほどお話がありましたので、今までの中の倍以上の予算がついておりますので県のほうには、そういったことで、議員全員で陳情なりいろんなことで頑張っておりますので、その辺ところは、またいろんな御意見がありましたら言っていたいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○影井伊久美議員

それでは残り時間わずかとなったんですけど、もう1人か2人くらい、時間がございまして。

○住民さん（市田義臣氏）

岡田さんが今の若者定住住宅のことに關して御質問されましたね。今この方式はプロポでやるんでしょ。プロポーザルでしょ。そうするとね、岡田さんが言われた地元業者に仕事来ないと。それは分かるんですよ。それは工事額が上がるわけだから。プロポでやったらね。一括でしょう、今回は。だから地元業者は入れないんですよ。工事請負額が高いから入れない。だから私はそこでみんな議会としてチェックする場合においてね、プロポがいいのか、それとも別個別個に個別に出して地元業者が参入できやすくするのか。そこらが議会が問題だと私は思うんですよ。それからもう一つはね今回の一括ですから、コスト面で地元業者と合わないというものでちょっと発言されましたけどね、今安芸太田町で

今の木材でこれ、プロポでやるにしても使用量木材、安芸太田町産の材を50パーセント使うっていうそういう歯止めをしてるんですか。議会で。ちょっとその点を確認のためお聞きしますよ。やっぱり地元産を半分は使わないかんというぐらいのやっぱり歯止めをかけないとね、それはいかんと私は思いますよ。

○津田宏議員

町の90%が森林というこの町がですね、やはり山を中心とした産業興しは前からも議会のほう私も、町のほうにお願いしとるんですが、なかなか前へ進んでいってないのが現状で、町長のほうも、公約のほうでやっぱり小規模林業に対して力を入れるということは言っとるけれど、やはりバイオマスの発電いうのも提案されてるみたいですが、なかなか前に進んでないのが原因。それとバイオマスというのはね、枝打ちした木なんか山へほったらかしなんですよね。やっぱり鉛筆の芯みたいなのがいっぱいあるわけですよ。そういうのを切って、ガス化して発電して1キロワット40円で480キロワット、年間1億7,000万ぐらい売上げて熱利用でやるという計画は今やとるみたいですが、なかなか前へ進んだらんのが現状。それと、安芸太田町産の木材というのは、戸河内小学校ですね、あれはもう指定をして、加計もね、そういうことの公共事業の分についてはそういう規制をかけておりますんで、民間についても、かけたいんですがそれをかけることによって割高になるというところも、あるわけですよ。

○住民さん（市田義臣氏）

だからこれだけでもね、地元産を使ったらいいんですよ、地元で金が回るから。だからそれ森林組合なんかも本当はもう疲弊してしまってるでしょ。だからそういうところはやっぱり考えないかと、それが議会私務めだと思ってますよ。

○津田宏議員

そういう面で、やっぱり山を中心としたね、産業おこしというのは前から、質問でも再々出ておりますし、それがなかなか現実に業者がない森林組合も余り前向きでないというのが現状ですね。というようなことです。

○住民さん（市田義臣氏）

前向きじゃないと言う発言でね、それ引っかかるわけじゃないけどね、議会の中では森林組合の理事やってる人、2人もおられるでしょ。前もここで3月に入れられた方も1人おられる。だからそういうところでやっぱり理事会で発言せなやあいけん。地元で金が落ちる方法いかにしたらいいかいうこと。それが欠如してるんじゃないかと。議会審議会だから私は欠如してるって言ってる。

○津田宏議員

おっしゃるとおりで我々もその迫力で町長に責め立てないと思うとるんですよ。町長の公約の中にもそれ、いの一歩ですからね、それを早いこと実現してくれと。この間も花粉症対策あたりもスギの木を切るとかですね、広葉樹植えてとか、そういう提案は出るんですけど、なかなか実行できないのが現実ですよ。以上です。

○中本正廣議長

林業のことでね今言われとるんだけど、自伐林業といって町長1番でやってるんだけど、自伐林業本当にええがにいつてるんかどうかっていうのも疑問に思う。それともう一つはね、ここに製材所がない。製材所がないっていうのはねやっぱりこれが1番ネックだと思います。

○住民さん（栗栖吉三郎氏）

時間が少ないようですから3点だけ簡潔に。まず道の駅の関係で、当初、令和7年8年で工事をして、令和9年度から営業開始ということであったと思いますが、現在は、移転補償交渉がまだ、完遂してないというような状況の中で、例えば、実施設計ができて、予定どおり工事着手ができるのかどうか、その見通しはどうかというのを1点ね。それから、小島議員の副町長時代も議論されたと思うんですが、安芸太田町の人口規模における一般会計の適正予算規模、現在80億超えておりますけどね。当時の議論としては、65からマックスでも70億円ぐらいが限度だろうというような形で、それ5か年計画で、そろえていくというような方向が示されとったと思いますがそういう扱いは現状ではどうなってるのかというのが2点。それから最後、議会の議長のほうへ陳情とか請願とかして、国県は別にして、採択されたものの追跡調査とかそれがどうなっておるかというようなことについて、議会はどのように把握をされておるんかっていうのを、簡潔でいいですから、以上3点。

○角田伸一議員

はい、道の駅ですね、今の計画どおりにできるかということかと思いますが、スケジュールはですね、一応、現在6年度ですが、6年度から7年度にかけて設計をして、それから7年度から8年度いっぱい施工するというようなスケジュールになっております。それでそれ以後供用開始ということですが、このあたり、数年先のことですから、第一歩として今設計ができる状態になったということでございます。それで予定どおりにできるかということについてはですねこれはしっかり執行部のほうで頑張ってもらおうと。いうふうに思っております。あと用地の交渉の件もありましたが、こういう議案が出るということは、行政側としても、ある程度固めてあるというようにですね思っております。以上です。

○小島俊二議員

はい予算規模についてはやはり65億から70億等々が町の予算で人口でいえば適正ではないかと今思っておりますが、ここ二、三年定住住宅でありますとか、JR橋梁の撤去、それと今回の道の駅の事業、大型事業がちょっと続いておりまして10億程度大きなオーバーになっておりますが、議会のほうでまたその辺のことも、予算規模についてもチェックは入っておりますんで、その辺のことはまた皆さんにお知らせしたいというふうに思っております。以上でございます。

○中本正廣議長

請願とか陳情採択の追跡調査というのがありましたよね。議会では採択しても結局執行は行政側ですのでね、その辺のところもやはり調査をしていきたいというような思っておりますので、また報告できるようにしたいと思います。

○津田宏議員

産業建設委員会の要望事項、数少ないんですが、安野をどうですか、JRの跡の電車の撤去に伴う整備とかですね、そういうのは今年の予算についております。それから加計スマートインターこれは一応採択をしたんです。まさか国のほうでOKが出るとは思わんぐらいですねスムーズにいきまして、それもう町費が1億ぐらいからですか、全部で23億ぐらいのネクソコからの発注に、令和12年の13年の3月を目標に今開通予定、着実に動いております。それともう一つ、ダム是件なんですけど、これも去年7億1,000万調査費用がつかまして今年も7億8,000万、この年末に、要望を出してこれは国の事業でございますが、それに伴う取付け道路とかですね、いろんな施設が国交省がまたできるような形になろうかと思っております。それで、広島市と連携しながら、ダム工事を進めていきたいと、地元の要望言いますか、地元から要望が最初上がりまして、それがあつという間に、結論が出て前向きに

いけたのも、この議会の要望、町と一緒にやってやった成果かなというふうに考えております。以上です。

○住民さん（奥下武士氏）

先ほどちょっと林業振興の件でちょっとした意見がありました。安芸太田町の中でですね、資源として、眠っておる資源、山林の資源ぐらいですね、豊富な資源が眠っとる資源はないと思いますよ。筒賀村時代には毎年一定のですね計画のもとに、山づくりを進めてありましたけれども、合併してですね、10年ぐらいは、何とか財産区の山についてもですね、それなりの対応がされておったと思いますけれども、安芸太田町内のことだけではなくて、この林業振興特に山の資源をですね活用するという、大きな観点から言えば、これは、県内言えば、いわゆる安芸高田、山県ぐらいが、大きな一つの共同体になってですね、どうやったらこの資源を活かすことができる活用できるんだろうかという、そういったところをですねもっと大きな視点で私は町長さんには臨んでもらいたい。議会のほうでもですね、そういう視点でですね、何とか活路を見いだすことができんのだろうかというところですね、一つ知恵を絞っていただきたいなあということを希望いたします。それと最後になりますが、今、町ではですね、公共施設3割削減というのがですね、何かひとり歩きしとるように私は感じますけれども、この削減計画、これは人口的な推移を将来的に見ればですね、当然、いろんな施設が整理統合されていくという運命にはあると思います。そういう過程を想定しながら、どういうふうにその公共施設を管理運営していくべきなのかということで検討されておるんだろうと思いますけれども、そこらの点についてはですね、しっかりと議会のほうでですね、チェック機能を果たしていただきたい、いうことを希望いたします。以上です。

○津田宏議員

時間もないのですが、去年の10月に石破先生が安芸太田町へいらっしゃいました。その中で、今回、石破茂総理大臣が生まれたわけですけども、その方が言われるのはですね、日本の7割が山で、それにもかかわらず、木を求めとるのはいかなもんかという話がありました。何でかという、建物を建てる企画を持ってるのは国交省だと、林野庁にはそれがないと。そこを林野庁で基準を決めるような企画をこしらえて、もう一度地方創生で山を活用して国造りをしたいということで今回総理になられました。この間もちょっと東京行ったんですけども、そういう地方創生の予算を倍額にするという話です。そういうところに町と一緒にですね、議会もいろんな提案をして、地方創生というのは、東京で決まった中央で決まった予算を、使えいってなしに、うちの町はこういう山づくりをしたいんでこれだけ金がかかるんで金出してくれと、そういうふうな方向に変わっておりますんでね。今から先にかけて、我々この町でしかできんような提案を町と議会とともに進めて、将来が持続可能な地域づくりをやっていけたらなあというふうに私は思っております。以上です。

○小島俊二議員

公共施設の管理計画については令和5年度に改定いたしまして、目標は3割の削減でございます。しかしながらまだ具体的な削減計画というのは立てられておりませんので、この前も一般質問でもあったんですが、そういった具体的な施設については早く住民のほうへ情報提供が欲しいと。いきなりこれを廃止すると言われても、住民もなかなか対応できないことがありますんでそれお願いしたいお願いしちゃうんですが、言ったところです。それと、集会所についても、町は今3年の指定管理に変更しました、5年から3年に。やはり大

規模の集会所について地元意向の、やっぱり地元に移行するというような計画を持ってるんじゃないかというふうに思っております。筒賀地区については地元の集会所が多いですからそれとのバランス、あと坂原と東区は直営の集会所ございますんで、その辺のあり方というのを今後早めに議論が必要でないかというふうに思ってます。以上です。

○影井伊久美議員

ありがとうございました。ではですね予定の時間となりましたので、本日は貴重な御意見をたくさん頂きありがとうございました。今後の議会活動にしっかりと活かしてまいりたいという所存でございます。最後になります、閉会にあたりまして、副議長の佐々木美知夫より御挨拶を申し上げます。

○佐々木美知夫議員

はい、今日は皆様方には大変忙しい日中、このようにお集まり頂きまして、本当にありがとうございます。今日頂いた意見、それぞれ、全部貴重だと思っております。さらにここにいます議員それぞれが今日お伺いした課題、要望、全部、ほとんど把握はしております。今後大型事業も今から先ほど述べましたが、道の駅事業、また加計スマートインターのフル、ダムの工事、いろいろ出てくると思います。ここにおける12人、一生懸命皆さんの御要望にこたえられるように頑張りたいと思います。今日は本当にありがとうございました。